

花粉発生源対策の現状

林野庁
令和5年7月

農林水産省の花粉発生源対策

花粉発生源となるスギの人工林について、「伐って、使って、植えて、育てる」といった森林資源の循環利用を推進し、花粉の少ない多様で健全な森林へ転換していきます。

伐って利用します

花粉を飛散させるスギ人工林等を伐採・利用します。

住宅に加えて、公共施設や商業施設の木造化等にスギ材を利用することにより、花粉を飛散させるスギ人工林の伐採を進めます。



伐採された木材の利用拡大



花粉発生源である立木の伐倒・搬出

植え替えます

花粉の少ない苗木等による植替や広葉樹の導入を進めます。

花粉の少ない苗木の生産増大に取り組み、スギの伐採跡地への植栽を促進します。また、条件不利地においては、伐採後の広葉樹の導入等を進めます。

花粉の少ない苗木等の生産体制を增強



出させません

スギ花粉の発生を抑える技術の実用化を図ります。

スギ花粉の飛散防止剤の開発・普及等、スギ花粉の発生を抑え飛散させない技術の実用化を図ります。



花粉飛散防止剤により枯死した雄花

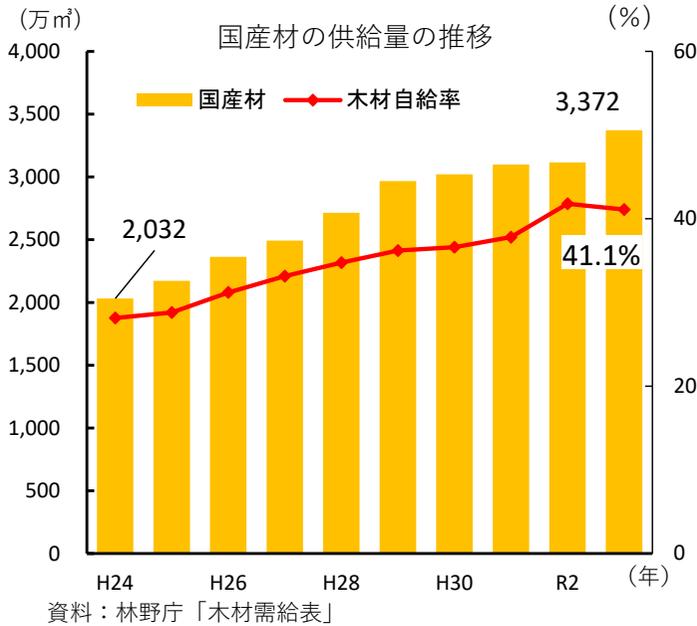


花粉発生源対策の現状

伐って利用します

国産材の供給量は、森林資源の充実や合板原料としてのスギ等の利用の増加などを背景に、H15年以降、増加傾向。

H24 2,032万m³ → R3 3,372万m³



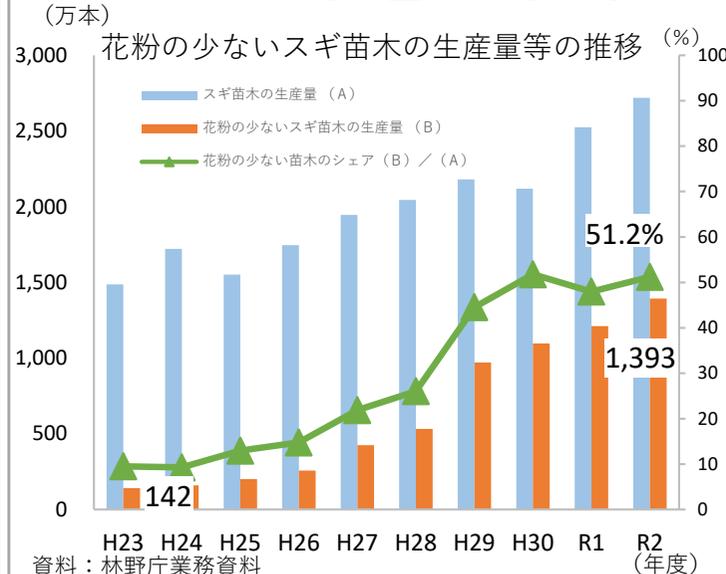
植え替えます

少花粉スギや無花粉スギなどの花粉の少ないスギ苗木の生産は、

H23 R2

142万本 → 1,393万本
10年間で約10倍に増加。

スギ苗木の年間生産量の約5割。



出させません

スギの雄花を選択的に枯死させる飛散防止剤の開発を支援。



飛散防止剤により枯死したスギの雄花

課題

利用期を迎えたスギ人工林は5割を超える中で伐採・利用は不十分。伐採等にかかる労働力の確保やスギの需要創出が必要。

花粉の少ないスギ苗木の生産量は5割に達したが、これらの苗木により植え替えたスギ林の累計は全体の1%未満。更なる生産量の拡大が必要。

飛散防止剤は実用化前で開発中。効果的・低コストな空中散布技術の確立や森林生態系への影響評価等が必要。